代表 施政方針への質問

至誠の絆　質問者：渥美　嘉樹

至誠の絆では、市政の見える化を一つの指針としている。今回は、長谷川市政の方針をより多くの皆さんと共有し、みんなでこれからの菊川について考えていく、そのための質問とさせていただきます。

Q　施政方針の中で、新型コロナウイルス感染症の影響で地域活動が縮小したことにより、活動の担い手不足や活動の継続方法が課題となっていると述べられました。この一つの象徴が秋祭りではないかと思います。

この秋祭りも含め、市長は地域活動の現状をどのように捉えているか、また今後どのように支援していくか伺います。

A　市が秋祭りの開催等について関与することはありませんが、各地域の伝統を継承していくことで、地域のつながりや絆が強くなり、災害時を含めた地域力の向上が図られるものと考えております。

Q　令和6年度に向け設置が進められる子ども家庭センターについて、菊川のどのような課題がどのように解決されるのか伺います。

A　子ども家庭センターについては、児童福祉と母子保健の一体的な支援を提供することができるようになり、これまで以上に妊産婦や子どもの状況を継続的に把握し、一元的に支援することができるものと考えております。

また、支援が必要な家庭については、関係者とともに本人を交えて作成する支援計画サポートプランにより、その家庭に合ったサービスを提供してまいります。本センターの運営については、子ども世代包括支援センターと子ども家庭総合支援拠点を再編し、市の運営により切れ目のない支援を行っていく。

Q　今後、園小中高連携を強化するとありますが、これは具体的にどのようなもので、どのようなメリットがあるのか伺います。

A　園小中で目指すべき子どもの姿や人間像を共有し、一貫した支援や指導を行うことで、保幼小中一貫教育を進めることができます。令和5年度は、園と小学校が連携を密にし、スタートカリキュラムを活用しながら、一貫性のある教育を進めてまいります。さらに、高校との連携を進めることで、子どもが高校を知る機会としたり、中高の教員同士の交流を深め、互いの教育を理解したりする環境をつくっていきたいと考えます。

Q　2025年に向け、構築を図っている地域包括ケアシステムをさらに深化・推進するために、第9期介護保険事業計画、第10次高齢者保健福祉計画を策定するとあります。

菊川の75歳以上人口は、2030年から2035年まで増加することから、並行して介護需要の急速な増加が見込まれております。このような状況で、地域包括ケアシステムの構築をどのように推進していくのか伺います。

A　高齢者の増加や地域の環境の変化を考慮し、介護を必要とする方の推移や訪問系介護サービスを含む介護需要の見込みと併せて、必要な介護サービス量の見込みも立てながら、次期計画策定において、地域住民及び保健、医療、福祉関係機関等の方と議論を重ね、施策推進してまいります。